

【教育目標】 英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

中野だより

令和2年 11月26日 発行 第29号 発行者:中野区立中野中学校

サンタクロースへのお願い

四季の森公園や中野通りの樹木が鮮やかに色づき、季節は晩秋の装いを存分に見せている。今年の春はコロナ騒動で桜を見そこねたとの思いを強くしている。せめて秋は紅葉を堪能したい、などと言っている場合ではなくなった。

秋の深まりとともに新型コロナウイルスが「第1波」「第2波」を上回る勢いで猛威を振うようになり、感染拡大に歯止めがかからない。国内の感染者は日によって2000人を超えることもあり、増加の一途をたどっている。都は感染状況の悪化を受け、4段階で示す警戒度を最高レベルの「4」に引き上げ、国はGoToキャンペーンの見直しを始めた。

海の向こうのヨーロッパはより深刻だ。イタリアでは1日の感染者が4万人を超える非常事態となり、人々の夜間外出が制限された。5歳のトッマーソ君は楽しみにしていたクリスマスのことが心配になり、イタリア首相に「サンタクロースの外出を禁止しないでください。クリスマスツリーの下には牛乳とクッキーのほか消毒液も置くので、プレゼントを届けてください」とメールをした。

これに対して同首相は、「サンタさんには特別な申請書があるから、国境だって越えて飛び回れるんだ」と自身のSNSで回答した。

首相の粋な計らいに喜んだトッマーソ君は、新型コロナがなくなるようサンタさんをお願いをするという。5歳の少年の健気な願いは、世界中の人々の共通の願いであろう。改めて子どもが欲しいおもちゃを無邪気にねだれる日常がいかにか尊いかを思わずにはいられない。

クリスマスまでにコロナをなくすることはできないが、我々は感染拡大を防止するための行動はできる。それは、3密回避、こまめな手洗い、マスク着用、健康観察、ソーシャルディスタンスの確保、消毒……。新たな日常では当たり前のことである。

ドイツにはサンタクロースについての古い言い伝えがある。それは、サンタクロースは双子で、一人は紅白の衣装を着て良い子にプレゼントを配り、もう一人は黒と茶の衣装を着て悪い子にお仕置きをするという。

感染防止の行動をしっかりとできている良い子にはサンタさんからプレゼントが届けられるだろう。仮にプレゼントが届かなかったと悲しんでいる人にも、実は「健康」という最高のプレゼントが届いているはずだ。



ドイツのサンタクロース
(ウィキペディアより)

運動会を終えて…

今年はコロナの影響で運動会の開催が危ぶまれましたが、学年別、時間短縮、無観客という異例の形で実施できました。実施にあたっては短い時間でも生徒の頑張りが表現でき、見ても行っても楽しい競技を考えることに頭を悩ませました。

今回初めて行った50mハードル走は練習を積まないと身につかない競技です。恐怖感を克服し、美しいフォームや良いテンポを保ちながら走る選手の姿は、応援する人には輝いて見えたと思います。また学年種目は、「密」を避けるために新しい競技を考えました。先生方や学級委員を交えて何度も話し合い、1年生は2人組でボールを運び鬼を退治する「きびだんごで鬼退治!」。2年生は3角形の綱を3クラスが同時に引き合う「新感覚綱引きバトル!」。3年生は担任の先生が持つポリバケツにボールを入れる「玉入れ、かごは担任!」というオリジナル競技が考え出されました。どの競技もルールを考え、小道具を手作りし、本番では担任の先生に入ってもらうなどして大いに盛り上がりました。

練習は体育の授業内のみで行われたため、学年全体練習ができなかったり、担任の先生が練習の様子を見られなかったりしましたが、中野中生は短い時間で練習を精一杯頑張っていました。また、今年は運動会の様子を動画配信しましたが、当日の応援あり、笑いあり、涙あり、感動ありという場面を多少でもご覧いただけたかと思います。

閉会式での実行委員長の言葉に「このような状況の中でも運動会を開催することができ、皆さんや先生方に感謝します」とありました。学年別開催のため、例年のような上級生が下級生に雄姿を見せることはできませんでしたが、その気持ちは十分後輩たちに伝わったと思います。

コロナ禍で色々な場面で例年と違うことに戸惑い、苦しむことがありましたが、今回の運動会は、与えられた時間や条件の中でできることが沢山あるということを教えてくれました。

(体育的行事委員長 大西敦子)



<運動会追記>

運動会後の生徒アンケートで、「運動会は楽しく充実していましたか」という質問項目に、1 学年 93.9%、2 学年 98.7%、3 学年 100%の生徒が「YES」と回答してくれた。しかも学年が上がるにつれてその割合が高くなっていることが嬉しい。

ある生徒が「みんなでものを作ったり、放課後いろいろ考えたり、今思えば無駄な時間は1分もなく、楽しかった思い出しか残っていない」という感想を寄せてくれたが、今年の運動会を象徴している言葉だ。

大西先生が「コロナ禍で例年と違うことに戸惑い、苦しむことがありましたが、今回の運動会は与えられた時間や条件の中でできることが沢山あるということを教えてくれた」と述べているが、全く同じ思いである。



食育講演会を実施

本校は体力向上に関する取組を毎年行っている。今年は11月14日、公認スポーツ栄養士のこばたてるみさんを講師にお迎えして食育講演会を実施した。当日は、3年生が体育館で直接、1・2年生は各教室でオンラインで講演会に参加した。

こばたさんは、現在中野中生が使用している保健体育の教科書にも掲載されるほどの食育指導に関しての第一人者であり、様々な場面で活躍をされている。当日は中学生にとって大変興味深く、ためになるお話をたくさんしてくださった。特に、「朝食を毎日食べている子どもはテストや体力テストの得点が高い」ことをデータで示され、「朝食をバランスよく食べることの重要性を指摘された。



認証式行われる

10月26日(月)、体育館において後期生徒会役員及び委員の認証式が行われた。

認証式にはこれから中野中生徒会の中心となって活躍することになっている2年生が立ち会い、1・3年生は教室でオンラインで参加した。現在、新生徒会が始動し各種活動が行われている。



教育実習(現場研修)

今年、教員免許取得を目指して大学生が行う教育実習に異変が起きている。新型コロナウイルス感染拡大防止のために教育実習を断る学校や、実習期間を短縮する学校が増えている。そのために、教育実習でなくても現場研修という形で実習を申し入れる大学が多い。中野中も年度当初に予定していた実習生4名以外に、8名の現場研修生を受け入れた。8名の中にはすでに教員採用試験に合格している学生もいれば、大学院で2年間研究をするという学生もいる。中野中での研修が少しでも役に立ち、将来立派な先生として中野中の教壇に立ってくれることを期待したい。



<表彰>

中野区中学校バドミントン新人大会 団体の部 第3位

保護者アンケートへのご協力をお願いします

今年度も「令和2年度学校教育に関する保護者アンケート」にご回答いただきますようお願い申し上げます。

アンケートは、中野区立学校が学校としての教育機能をどの程度果たしているかを保護者の皆様に評価していただき、その結果を今後の教育活動の改善・充実・向上を図っていくための資料とさせていただきます。今年度も昨年度と同じ28の項目について評価いただきますようお願いいたします。

なお、アンケートは封筒に入れ三者面談の折に担任にご提出願います。面談時にお忘れになった場合でも後日ご提出いただければ幸いです。

ご協力いただいたアンケートは集約し、その結果については中野中だよりやホームページ等でお知らせする予定です。

大変お手数をおかけいたしますが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。